

巡礼者イニゴ

聖イグナチオ・デ・ロヨラの劇的な生涯の劇

塩谷恵策 SJ

37

第十幕 第三場（その3）

ローマにて

1523年聖週間と復活祭の週

登場人物：	イニゴ・デ・ロヨラ	巡礼者
	ハイメ+イサベル	イニゴの騎士時代の友人夫妻
	ルイス+マリア	同
	ホセ+フランシスカ	同

【語り】ローマに着いた日に、騎士時代の旧友たちに会い、夕食を共にしたイ

ニゴは、普段胸に秘めて語ることのない、エルサレム巡礼の望みに

ついて彼らには語るのです。彼らがイニゴのことを親身になって

心配し、援助を申し出てくれたので、教皇に謁見することが出来る
よう取り計らってもらうことにしました。

ホセ：教皇の謁見についてなら僕が駐ローマ・イスパニア大使に頼んでおく。

聖木曜日からは教皇は特に聖週間の典礼でお忙しいと思うので、その前
がいいな。善は急げだ、明日か明後日はどうだ？

イニゴ：それはありがたい。よろしく頼む。

マリア：聖地巡礼をなさる方は皆、教皇様の祝福と許可をお願いになりますものね。

ルイス：教皇の許可は これで良しと。ところで、エルサレムまでの船はもう
決まっているのか？渡航費はどれくらいかかるんだろう？

イニゴ：船はまだ見つけていない。ヴェネツィアについてから乗せてくれる船
を探すことにしているんだ。お金はないので、ただで乗せてくれる
船を探すことにしている。

一同： えーっ？なんだって？

ハイメ：金を持たずにエルサレムにいけると思ってるのか？いくらなんでも、
それは無理だろう。船にもよるだろうが、最低 20 デュカット、もし
かするとその倍ぐらいはかかるだろう。

イニゴ：バルセローナからガエタに来るときにもただで乗船させてもらった。

神がエルサレム巡礼を私におさせになることを望まれるなら、必ずそれが実現する手立てを考えてくださるはずだと信じている。だからそれについてはあまり心配していないんだ。

ホセ： そうは言ってもあまりにも無茶だ。エルサレムまでの船賃には足りないが、道中わずかでも役に立ててくれないか？（と言って、2デユカットをイニゴに無理に受け取らせようとする。）

イサベル： できれば私も聖地に行きたいくらいですが、叶いませぬので、せめてほんの少しでもお役に立ててくださいな。

（と言いながら、一同は次々とイニゴに無理にお金を渡そうとする。

イニゴが受け取ることを渋るので、ハイメが代わりに集め、勘定する。）

ハイメ： 7デユカット。今日は何も用意していないのでこれだけしかないが、すぐ何とかするから、とりあえずこれだけ受け取って、我々の分まで巡礼してきてくれ。

イニゴ： 君たちの友情には心底感謝するけど、私はただ神のみに信頼したいと思っているんだ。折角のご厚意なのでこれだけは頂くが、これ以上何もしないでほしい。それでは、これでお暇いとましよう。久しぶりに

皆に会えて、とても楽しかったよ。皆、お達者で。

ホセ、では教皇様の謁見のこと、よろしくお願いします。

ホセ： よし、分かった。任せとけ。

イニゴ： 有難う。では諸君、御機嫌よう。皆の親切は忘れません。神の恵みが豊かにありますように。

一同： Adios !

【語り】 その2日後、3月31日にイニゴは教皇ハドリアノ六世から祝福を受け（註10）、聖週間及び復活の8日間をローマで過ごした後、ヴェネチアに向けて出発しました。この600kmの徒歩の旅も苦難に満ちたものでした。（註11）

註10 次のような公式記録が残っている。「ハドリアーヌス六世は、
Pamplona 教区の聖職者 ENECO de Loyola が、主の聖墳墓と他の聖なる場所を訪れることを許可する。 1523年3月31日」

註11 4月5日が1523年の復活の主日であり、イニゴはそれから8日か9日目（13日か14日）に、ベネチアを指してローマを旅立った。